

List of exhibits

| No | Title | Artist | Material | Date | Size(cm) | Collection/Owner |
|----|--|---|-----------------------------|---------------------------|--------------------|-------------------------------------|
| 1 | Examples of one hundred painting styles | KANO Shoun (1637-1702) | color on silk | Japan, 17th -18th century | 24.4×25.2 (each) | Kuroda Family Treasures |
| 2 | Pine trees and birds | Attributed to KANO Motonobu (1477?-1559) | ink on paper | Japan, 16th -17th century | 118.3×54.7 | Kuroda Family Treasures |
| 3 | The Zen patriarch Fengkan and Han-shan and She-de | Attributed to KANO Motonobu (1477?-1559) | ink on paper | Japan, 16th century | 56.0×110.5 (each) | Ota Collection |
| 4 | Portrait of Kuroda Tadayuki | KANO Tan'yu (1602-1674), Inscription by Takuan Soho (1573-1645) | color on paper | Japan, 17th century | 87.3×36.4 | Kuroda Family Treasures |
| 5 | Portrait of Kakinomoto no Hitomaro | KANO Yasunobu (1614-1685) | color on silk | Japan, 17th century | 122.5×56.3 | Buddhist Art from the Tokoin Temple |
| 6 | Otter | KANO Tan'yu (1602-1674) | color on paper | Japan, 17th century | 51.5×105.7 | Kuroda Family Treasures |
| 7 | Drum decorated in Maki-e Lacquer with Design of Peonies | KANO Tan'yu (1602-1674), KANO Yasunobu (1614-1685), KANO Masunobu (1625-1694) | lacquered wood | Japan, dated 1691 | D. 34.6 H.16.2 | Kuroda Family Treasures |
| 8 | Birds and pine tree, snowy heron and willow | KANO Tsunenobu (1636-1713) | ink on paper | Japan, 17th -18th century | 147.4×351.8 (each) | Ota Collection |
| 9 | Tigers among bamboo | KANO Yasunobu (1614-1685) | color on silk | Japan, 17th century | 146.8×270.2 (each) | Kuroda Family Treasures |
| 10 | Scenes from the Noh Performance and the Tale of Ise | KANO Iori (?-?) | color on paper | Japan, 17th century | 87.7×269.6 (each) | Buddhist Art from the Tokoin Temple |
| 11 | Daruma(Bodhidharma) flanked by cranes with pine and bamboo | KANO Masunobu (1625-1694) | ink and light color on silk | Japan, 17th century | 92.5×33.5 (each) | Private Collection |
| 12 | Jurojin, god of longevity, flanked by cranes with pine and bamboo | KANO Tan'yu (1602-1674) | ink and light color on silk | Japan, 17th century | 150.4×64.0 (each) | Kuroda Family Treasures |
| 13 | San-kuo-chin, scene from Chinese histrical novel flanked by peacocks and phoenix | KANO Shoun (1637-1702) | color on silk | Japan, 17th -18th century | 115.8×47.8 (each) | Kuroda Family Treasures |
| 14 | View of Kanazawa | KANO Shoun (1637-1702) | color on silk | Japan, 17th -18th century | 31.9×482.9 | Kuroda Family Treasures |
| 15 | Parodies of Chinese and Japanese subjects | KANO Shoun (1637-1702) | color on paper | Japan, 17th century | 28.6×1334.8 | |

- All exhibits except No. 11 are from the Fukuoka Art Museum's collection.
- Works on display may change without prior notice.

狩野派絵画名品展

Masterpieces of the Kano School

会期 2023年12月19日(火)-2024年2月18日(日)

会場 古美術企画展示室



出品No.3 伝・狩野元信筆《豈干禪師・寒山拾得図》

狩野派は、室町時代の正信（1434～1530）を始祖とする絵師の家系です。初代の正信以降も元信（1477?～1559）、探幽（1602～1674）など優れた絵師を輩出し、室町時代から江戸時代を通して画壇に強い影響力を及ぼしました。

本展では、館蔵品を中心に狩野派の絵師がてがけた作品を精選し、その画業をたどります。

(学芸員 宮田太樹)



福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051 (代表) FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

もとのぶ 狩野元信 (1477?~1559)

狩野派の始祖である正信の子息として生まれた元信は、画技に優れたことはもちろん、工房の主宰者としても優れた手腕を發揮し、それ以後の狩野派の礎を築きました。元信の功績として特筆されるのが、「画体」の確立です。従来の漢画系の絵師は、牧谿や夏珪など中国人画家の作風(筆様)に倣って制作を行っていました。元信はこれらの筆様を整理・統合することで真・行・草という3つの画体を生み出し、弟子たちに学ばせました。自身の作風を会得した弟子を多く養成することによって、集団的な作画活動を行うことができたのです。

本展で紹介している《豊干禪師・寒山拾得図》(作品3)は典型的な行体の画体を示す作品です。

たんゆう 狩野探幽 (1602~1674)

室町時代の元信を狩野派の確立者とするならば、中興の祖と呼べるのが探幽です。探幽は、元信の孫である永徳(1543~1590)の次男、孝信(1571~1618)の長男として生まれました。探幽の画風はしばしば端麗瀟洒と形容されます。すなわち、前代までの狩野派の絵師たちがダイナミックでスケールの大きな作品を多く描いたのに対し、探幽はモチーフを小さめにとらえて余白を広く取り、淡い色を多用するなどして穏やかな画面を創り出しました。《獺図》(作品6)からは、穏やかな画風を好んだ探幽の温かいまなざしが感じられます。

探幽は16歳で将軍家の御用絵師となって以降、徳川幕藩体制と密接な関係を築き、一門の地位を盤石なものとします。福岡藩2代藩主、黒田忠之の姿を描いた《黒田忠之像》(作品4)が残るなど、各地の大名にも探幽の顧客は多かったようです。

やすのぶ 狩野安信 (1613~85)

孝信には探幽のほかに、尚信(1607~1650)、安信という子息があり、いずれも御用絵師として活躍しました。安信は、彼ら探幽三兄弟の中では最も画技が劣るとされ、探幽三兄弟が席画(宴会の席などで、求めに応じて即席に絵を描くこと)を依頼された際、探幽は安信に描くことを許さず、兄たちが描くのを見ておれと言ったというエピソードも伝わります(木村探元『三曉庵雑志』)。

ただし、実際の作品を見ていると、画技の優劣というよりは個性の違いと捉えるべき部分も少なくありません。《竹虎図》(作品2)はその大きさや引手の痕跡が残ることから、元は襖絵であったと考えられます。これだけの大画面を破綻なく仕上げる点に安信の堅実な技術を見て取ることが出来ます。また、竹や虎をかたどる輪郭線は濃く太い墨で引かれており、探幽作品が持つ上品さとは別趣の明快さと力強さを生んでいます。

まさのぶ 狩野益信 (1625~1694)

金工家、後藤益乗の子として生まれ、11歳の時に探幽の養子となり、その後継者となるべく絵を学びました。探幽に実子、探信(1653~1718)が生まれたため、後を継ぐことはありませんでしたが、万治2年(1659)、35歳にして別家をたて、駿河台家の祖となりました。《達磨・龍・虎図》(作品11)には、探幽譲りの穏やかな画風が示されています。また、《牡丹文蒔絵太鼓》(作品7)、では探幽、安信とともに下絵を描いています。

つねのぶ 狩野常信 (1636~1713)

探幽三兄弟の一人、尚信の長男です。若くして父を亡くし、探幽のもとで修業したため、前半生は探幽様式が色濃い作品が多いですが、後半生には独自の表現にも取り組みました。《松小禽・柳白鷺図屏風》(作品8)は余白をいかした典型的な草体の水墨花鳥画ですが、樹の幹を表す擦れをいかした荒々しい筆致は、探幽作品に通有の繊細さとは別趣の感覚をうかがわせます。

しょううん 狩野昌運 (1637~1702)

狩野昌運は、下野国宇都宮(現・栃木県宇都宮市)に生まれました。祖先と子孫は和田姓ですが、一時的に祖父の代から岩本姓を名乗っています。14歳で安信に入門し、21歳で画の修行を終えます。安信からの信頼も厚く、彼と親しかった狩野了昌安季の養子となります。その後、養父から狩野姓を継ぐに至ります。安信一門の重鎮として活躍した後、元禄3年(1690)頃より、福岡藩四代藩主・黒田綱政の招きに応じて福岡藩御用絵師となりました。その後は、福岡と江戸を行き来しながら作画を続けています。《鴻門会・孔雀・鳳凰図》(作品13)のような師の安信譲りの堅実な画技を示す作品がある一方で、《異代同戲図巻》(作品15)のようなユーモアあふれる作品も残しています。

いおり 狩野伊織 (?<1601以降>~?<1663以降>)

伊織は、狩野永徳(1543~1590)の門人の狩野山楽(1559~1635)の子息です。徳川幕府の成立に伴い、探幽ら狩野派の本筋は江戸へ拠点を移します。一方、山楽は京にとどまって制作を続けたため、彼らの系譜を「京狩野」と呼ぶこともあります。伊織は、山楽の娘婿であった山雪(1590~1651)とともに、京狩野家を支えましたが、山楽の没後、京狩野家の当主を継いだのは実子の伊織ではなく、山雪でした。こうした背景もあり、伊織の作品はほとんど残っていないため《蟻通・伊勢の海図屏風》(作品10)は貴重な存在です。本作の人物に見えるアクの強い表情は、永徳の画風を継いだ京狩野の作風を伊織も身に付けていたことを示しています。

出品作品リスト

| No | 作品名 | 作者名 | 品質形状 | 時代世紀 | 法量(cm) | 所蔵 |
|----|-------------------|---|------------|--------------------|---------------------|-----------|
| 1 | 百流之絵鑑 2帖 | 狩野昌運 (1637-1702) | 絹本着色、折本装 | 江戸時代 17-18世紀 | 縦24.4 横25.2(各) | 黒田資料 |
| 2 | 松に小禽図 2幅対 | 伝・狩野元信 (1477?-1559) | 紙本墨画、掛幅装 | 桃山～江戸時代 16-17世紀 | 縦118.3 横54.7 | 黒田資料 |
| 3 | 豊干禪師・寒山拾得図 2幅対 | 伝・狩野元信 (1477?-1559) | 紙本墨画、掛幅装 | 室町時代 16世紀 | 縦56.0 横110.5(各) | 太田コレクション |
| 4 | 黒田忠之像 | 狩野探幽 (1602-1674)筆、 沢庵宗彭 (1573-1645)贊 | 紙本着色、掛幅装 | 江戸時代 17世紀 | 縦87.3 横36.4 | 黒田資料 |
| 5 | 柿本人麿像 | 狩野安信 (1614-1685) | 絹本着色、掛幅装 | 江戸時代 17世紀 | 縦122.5 横56.3 | 東光院佛教美術資料 |
| 6 | 獺図 | 狩野探幽 (1602-1674) | 紙本着色、掛幅装 | 江戸時代 17世紀 | 縦51.5 横105.7 | 黒田資料 |
| 7 | 牡丹文蒔絵太鼓胴 | 狩野探幽 (1602-1674) 狩野安信 (1614-1685) 狩野益信 (1625-1694)下絵 | 木胎漆塗 | 江戸時代 元禄4年(1691) | 径34.6 高16.2 | 黒田資料 |
| 8 | 松に小禽・柳に白鷺図屏風 6曲1双 | 狩野常信 (1636-1713) | 紙本墨画、屏風装 | 江戸時代 17-18世紀 | 縦147.4 横351.8(各) | 太田コレクション |
| 9 | 竹虎図 2面 | 狩野安信 (1614-1685) | 紙本着色、額装 | 江戸時代 17世紀 | 縦146.8 横270.2(各) | 黒田資料 |
| 10 | 蟻通・伊勢の海図屏風 6曲1双 | 狩野伊織 (生没年不詳) | 紙本着色、屏風装 | 江戸時代 17世紀 | 縦87.7 横269.6(各) | 東光院佛教美術資料 |
| 11 | 達磨・龍・虎図 3幅対 | 狩野益信 (1625-1694) | 絹本墨画淡彩、掛幅装 | 江戸時代 17世紀 | 縦92.5 横33.5(各) | 個人蔵 |
| 12 | 寿老人・松鶴・竹鶴図 3幅対 | 狩野探幽 (1602-1674) | 絹本墨画淡彩、掛幅装 | 江戸時代 17世紀 | 縦150.4 横64.0(各) | 黒田資料 |
| 13 | 鴻門会・孔雀・鳳凰図 3幅対 | 狩野昌運 (1637-1702) | 絹本着色、掛幅装 | 江戸時代 17-18世紀 | 縦115.8 横47.8(各) | 黒田資料 |
| 14 | 金沢之図 | 狩野昌運 (1637-1702) | 絹本着色、巻子装 | 江戸時代 17-18世紀 | 縦31.9 横482.9 | 黒田資料 |
| 15 | 異代同戲図巻 | 狩野昌運 (1637-1702) | 紙本着色、巻子装 | 江戸時代 17世紀 | 縦28.6 横1334.8 | |

・出品No.11以外は全て福岡市美術館の所蔵品です。
・都合により展示作品を変更することがあります。